

【オホーツク圏減災対策協議会】防災・減災に関するシンポジウムを開催

- ◆ 平成28年8月北海道・東北豪雨災害により、管内では常呂川をはじめとして甚大な被害を受けたことから、防災意識の風化の防止と、洪水の教訓を活かした防災・減災に向けた今後の取組について、情報を共有し意識を深めていただくことを目的に開催
- ◆ 水防災意識社会再構築に向けた取組、災害時の実際の行動と今後の取組についての関係機関からの報告とともに、東京大学大学院の松尾客員教授を招き、水防災の課題とタイムラインを活用した防災対応の事例について講演が行われました
- ◆ オホーツク圏の各減災対策協議会において策定された減災に関する取組方針の「概ね5年で実施する取組」において、関係機関連携型タイムラインの検討、水害リスク情報の周知や防災意識の啓発に資する取組について今後も積極的な情報の発信、関係機関の連携を行っていきます

シンポジウムの開催状況

■ 時 間：平成29年7月22日 13:30~16:20 ■ 場 所：北見市端野町公民館グリーンホール

■ 出席者：総出席者293名

出席者～ 武部新衆議院議員、鈴木貴子衆議院議員（代理）、畠山和也衆議院議員（代理）、鉢呂吉雄参議院議員（代理）、北海道議会議員、北見市長ほか関係機関担当者



会場の様子

多くの来場者が耳を傾けた



パネル展示の様子

担当者よりパネルについての説明を受ける来場者



開催の言葉

武部 衆議院議員より



開会挨拶

（鈴木 網走開発建設部長、辻 北見市長）



関係機関の担当者からは水防災意識社会再構築に向けた取組などが報告された



松尾 東京大学大学院客員教授からは、

- ・タイムライン防災の事例紹介
 - ・導入のための関係機関が取組むべき事項
 - ・地域住民も一緒になった合意形成の取組の必要性
 - ・リスク情報の共有
- など、『地域住民の命を守る』ために繋がる事項に関して講演をいただいた。



◆オホーツク圏では、関係機関が連携し、大規模な氾濫の発生に備え減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進する「水防災意識社会」の再構築に取り組んでいます。

（参考）網走開建HP：<http://www.hkd.mlit.go.jp/ab/tisui/v6dkjr00000000cf.html>

【オホーツク圏減災対策協議会】防災・減災に関するシンポジウムを開催

シンポジウム概要



【開会挨拶（鈴木 網走開発建設部長）】

「異常といえる災害は全国どこでも起こりうる時代であり、防災・減災を考えていくきっかけにしていきたい」



【開会挨拶（辻 北見市長）】

「記憶を風化させないようにし、災害に強い街づくりに取り組んでいく」



【開催の言葉（武部 衆議院議員）】

「本年、九州豪雨災害もあり、本シンポジウムの意義は大きい。いっどこでも想定外の災害が起きうることを認識し、地域の国土強靱化に向け尽力していく」

第1部 水防災意識社会の再構築に向けた取組



【関係機関からの報告（尾形 北見河川事務所長）】
～H28出水及び災害報告～
昨年の災害発生状況、応急復旧について



【関係機関からの報告（高橋 網走開発建設部次長）】

～水防災意識社会再構築ビジョン、
北海道緊急治水対策プロジェクトの進捗状況～
水防災意識社会再構築の動きと、大規模氾濫減災協議会及び北海道緊急治水対策プロジェクトにおける減災の取組について



【関係機関からの報告（米山 網走建設管理部 地域調整課長）】

～水防災意識社会再構築ビジョン、
北海道緊急治水対策プロジェクトの進捗状況～
都道府県大規模氾濫減災対策協議会及び北海道が管理する河川における北海道緊急治水対策プロジェクトにおける減災の取組について

第2部 災害時の行動について



【関係機関からの報告（山下 網走地方気象台 観測予報管理官）】

～防災気象情報について～
降水量による危険度分布について説明



【関係機関からの報告（阿部 北見市総務部 防災危機管理担当部長）】

～H28災害避難と情報伝達～
平成28年8月台風時の日吉地区における2次避難所への深夜避難について、避難誘導の経験から、起こりうる災害の事前の周知と避難割合の向上の重要性について



【講演「新たな防災の取り組みで命を守る」

～水防災の課題とタイムライン防災のいまとこれから～
松尾 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 客員教授

現状の地域防災計画の問題点を指摘、タイムライン活用による避難計画及び避難行動の明確化が、自治体や住民及び関係機関がそれぞれ災害時に何が起こり、何が必要な対策になるのかを考えることにつながり、災害時に混乱の無い対応が可能になるとして、タイムライン活用の有効性について解説した

◆オホーツク圏では、関係機関が連携し、大規模な氾濫の発生に備え減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進する「水防災意識社会」の再構築に取り組んでいます。

（参考）網走開建HP：<http://www.hkd.mlit.go.jp/ab/tisui/v6dkjr00000000cf.html>